

平成 21 年 1 月 30 日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
 (コード番号：4572)  
 問合せ先 取締役経営管理部長 島川 優  
 (TEL. 078-302-7039)

平成 20 年 12 月期通期業績予想 (連結・個別) の修正に関するお知らせ

最近の業績動向などを踏まえ、平成 20 年 8 月 6 日の中間決算発表時に公表いたしました平成 20 年 12 月期 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日) 通期における連結・個別業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期通期 連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)  
 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 8 月 6 日発表)	712	△284	△333	△592
今回修正予想 (B)	495	△300	△350	△515
増減額 (B - A)	△217	△16	△17	77
増減率	△30.5%	—	—	—

2. 平成 20 年 12 月期通期 個別業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)  
 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 8 月 6 日発表)	674	△252	△301	△560
今回修正予想 (B)	480	△285	△335	△502
増減額 (B - A)	△194	△33	△34	58
増減率	△28.8%	—	—	—
前期 (平成 19 年 12 月期通期) 実績	513	△147	△158	△179

### 3. 業績修正の理由

#### (1) 売上高の修正について

平成20年12月期第4四半期に入り、米国のサブプライムローン問題を発端にした米国大手金融機関の破綻や世界的な金融市場の危機的混乱の影響により世界的に景気後退が進む中、当社が属する製薬業界においてもその影響が想定以上に及んでおり、欧米の大手製薬企業の研究拠点の統廃合、大規模なリストラクチャリング、研究プロジェクトの一部凍結などの研究投資の冷え込みが生じております。

当社グループは、これまで第4四半期中の欧米の大手製薬企業からのプロファイリングサービスの年間大型契約獲得に向け、全社一丸となって受注活動に取り組んでまいりました。しかしながら、前述の極めて厳しい経済情勢や金融不安など外部環境の影響や米国のオバマ新政権下での薬価引下げへの懸念などの影響に伴い、大手製薬企業の研究投資が抑制されたことから、当該大型契約を受注することができませんでした。また、当社グループは米国に子会社を設立し、北米顧客への積極的な拡販活動を展開してまいりましたが、北米市場における製薬企業の研究投資の冷え込みは想定以上に厳しく、こうした厳しい状況のもと、研究試薬全般の買い控えの影響を受け、北米向けの売上が想定を下回りました。

こうした状況から、平成20年12月期の連結業績予想につきましては、売上高は前回（平成20年8月6日）公表しました売上予想を下回る見通しとなりました。

#### (2) 損益の修正について

営業損益ならびに経常損益につきましては、販管費の見直しなど経費削減に努めたものの、前述の通り売上高が計画未達であったことに伴い、前回公表した予想を下回る見通しとなりました。

一方、当期純損益につきましては、新本社への移転費用の節減や設備計画の見直し、研究設備の低価格での効率的な調達・購入など、効果的な調達マネジメントに努めた結果、当初見込んでいた費用を削減することができ、前回公表した予想を改善する見通しであります。

なお、個別業績予想の修正につきましても連結業績予想の修正と概ね同様の理由によるものであります。

以 上

(注) 本資料に掲載されている業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。